

III 専門科目

III-i 看護学分野

コミュニケーションヘルス看護学特論	145
ヘルスプロモーション看護学特論	147
看護学特別研究Ⅰ	148
看護学特別研究Ⅱ	150
看護学特別研究Ⅲ	151

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生		
コミュニティヘルス看護学特論 (専門科目)	教授・菅原 京子 学長・上月 正博 教授・安保 寛明 准教授・鈴木 育子	博士後期課程 1年	後期	2	30	選択	否		
授業概要	今日の複雑多岐に渡る健康課題の解決のためには、人々の生活共同体であるコミュニティを基盤にしたヘルスケアを展開することが求められる。そこで、コミュニティの多様な状況と人々の健康を統合的に捉え、コミュニティを基盤にしたヘルスケアを展開する方法について深く学び、コミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割について探求する。								
一般目標	1. 今日のコミュニティヘルス上の主要な健康課題（がんや生活習慣病、精神的健康、在宅ケア）について多角的に理解できる。 2. 上述の主要な健康課題の複雑多岐な状況について考察する。 3. 複雑多岐に渡る健康課題に対するコミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法について、看護学及び関連分野の知見から具体的に検討できる。 4. 複雑多岐に渡る健康課題を解決するコミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割について認識することができる。								
到達目標	1. 文献や自己の経験から、健康課題の複雑多岐な状況について実感できる。 2. がんや生活習慣病について、それらの病態に関する最新の知見や地域特性を踏まえて、今日的な課題を説明できる。 3. 精神的健康について、歴史的視点を踏まえて今日的な課題を説明できる。 4. 在宅ケアについて、歴史的視点を踏まえて今日的な課題を説明できる。 5. がんや生活習慣病、精神的健康、在宅ケアにおける複雑多岐な状況について、討議を通して具体的に表現することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ● がんや生活習慣病と保健医療連携 ● 精神的健康に関する課題と地域住民の理解 ● 在宅ケアに関する課題と保健福祉サービスの質と量 6. 複雑多岐に渡る健康課題に対するコミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法について、看護学及び関連分野の知見から具体的に説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域看護診断を用いたコミュニティの特性に応じた活動展開 ● コンコーダンスによる治療同盟の構築や複合健康問題への援助 ● 訪問看護による在宅療養支援、地域での生活を支える看護 ● フランスの在宅ケアから学ぶ共生を支える看護 7. 複雑多岐に渡る健康課題を解決するためのコミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割について具体的に述べることができる。								
成績評価方針 評価方法 および基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート①(30%)：到達目標のうち、2、3、4のいずれか1つのテーマを選び、レポートを書いてください。テーマの内容を理解しているか、を判断基準とします。 ・プレゼンテーション作成資料(30%)：作成資料が到達目標5に関して達成しているかを判断基準とします。資料作成については、授業のなかで指示します。 ・意見交換への参加(10%)：到達目標5の討議の場面で、自分の意見を述べることができているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。 ・レポート②(30%)：到達目標6・7に関する内容のレポートです。コミュニティヘルスに寄与する看護について具体的に述べているか、を判断基準とします。 								
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当		
1	毎週 金曜日 1限目	オリエンテーション	複雑多岐に渡る健康課題とは・討議				全員		
2		コミュニティヘルス上の 主要な健康課題①	がんに関する臨床病理学的話題・地域特性・今日的課題				上月		
3			生活習慣病の病態に関する臨床病理学的話題・地域特性・今日的課題						
4		コミュニティヘルス上の 主要な健康課題②	精神的健康に関する課題 歴史と今日的課題				安保		
5		コミュニティヘルス上の 主要な健康課題③	在宅ケアに関する課題 歴史と今日的課題				鈴木		
6		健康課題の複雑多岐な状況の討議	がんや生活習慣病と保健医療連携			プレゼン 資料作成	全員		
7			精神的健康に関する課題と地域住民の理解						
8			在宅ケアに関する課題と保健福祉サービスの質と量						

9	コミュニティを基盤にしたヘルスケアの展開方法	地域看護診断を用いたコミュニティの特性に応じた活動展開		菅原			
10		コンコーダンスによる治療同盟の構築		安保			
11		コンコーダンスによる複合健康問題への援助					
12		訪問看護による在宅療養支援		鈴木			
13		地域での生活を支える看護					
14		フランスの在宅ケアから学ぶ共生を支える看護		菅原			
15	まとめ	コミュニティヘルスの発展に寄与する看護の役割		全員			
教科書参考図書		参考図書： • Elizabeth T. Anderson ed : Community as Partner Theory and Practice in Nursing • 福原宏幸：社会的排除・包摶と社会政策（シリーズ・新しい社会政策の課題と挑戦）、法律文化社、2007 • 川越博美, 山崎麻耶, 佐藤美穂子総編集：最新訪問看護研修テキスト. 日本看護協会出版会、石垣和子, 金川克子監修：高齢者訪問看護の質指標 ベストプラクティスを目指して. 日本看護協会出版会、訪問看護業務の手引き：社会保険研究所					
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。						
学生へのメッセージ	本科目は看護学分野の専門科目ですが、複雑多岐に渡る健康問題に対応していくためには、学際的な討議の力が重要となります。そのため、1回目、6~8回目、15回目の討議には、看護学の教員だけでなく医学の教員も参加します。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 安保：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生			
ヘルスプロモーション 看護学特論 (専門科目)	教授・桂 晶子 教授・遠藤 恵子 教授・齋藤 美華	博士後期課程 1年	後期	2	30	選択	否			
授業概要	ヘルスプロモーションに関する概念や理論を教授し、ヘルスプロモーションの観点から個人や集団に対する看護実践に導く方策を考察する。									
一般目標	1. ヘルスプロモーションに関する概念や理論を、周辺の理論や概念と関連づけて体系的に理解できる。 2. ヘルスプロモーションの効果を明確にする研究方法を理解できる。 3. 自分の研究領域において、ヘルスプロモーションの適用方法を探求できる。									
到達目標	1. ヘルスプロモーションに関する概念や理論を周辺の理論や概念と関連づけて説明できる。 2. ヘルスプロモーションに関する国内外の研究の動向や課題を検討できる。 3. 介入によるヘルスプロモーションの評価の手続きや指標を説明できる。 4. 自分の研究領域において、ヘルスプロモーションの適用方法を考察できる。									
成績評価方針 評価方法 および基準	<ul style="list-style-type: none"> レポート(30%) : 9~12回目のクリティックの内容の適切さ、演習後レポートでは、演習をふまえ、研究の動向や課題が客観的に記載され、自分の研究領域で今後必要とされる研究の方向性が記載されているか プレゼンテーション作成資料(30%) : 13~15回目の演習のための作成資料が、自分の研究領域における理論的根拠に基づいたヘルスプロモーションの教育計画・評価であるかを判断基準とする 授業への参加①(20%) : 1~8回目の講義において、学習内容を理解できているか 意見交換への参加②(20%) : 9~15回目の講義において、自分の意見を述べることができているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか 									
授業形式	講義・演習(遠隔授業になる場合もあります)									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1~2	毎週 金曜日 1限目	ヘルスプロモーションの概念と理論	疾病予防と健康増進、保健行動、動機づけ	プレゼンテーションの準備	桂					
3~4		ヘルスプロモーションを基盤とする実践活動の評価指標と評価方法	健康指標、疫学診断、PECO	プレゼンテーションの準備	桂					
5~6		介護予防とヘルスプロモーション	日常生活の活動、社会参加	プレゼンテーションの準備	齋藤					
7~8		次世代育成とヘルスプロモーション	育児支援、虐待予防、性教育	プレゼンテーションの準備	遠藤					
9~12		ヘルスプロモーションに関する研究と自分の研究領域への活用	【演習】 国内外のヘルスプロモーションに関する研究をクリティック自分の研究領域への活用	プレゼンテーションの準備	桂 遠藤 齋藤					
13~15		ヘルスプロモーションと健康教育	【演習】 理論的根拠のある教育計画案作成、評価方法の検討	プレゼンテーションの準備	桂 遠藤 齋藤					
教科書 参考図書	授業の中で随時紹介する。									
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。									
学生へのメッセージ	疑問を持つことと、自由な発想、それに対する批判的な吟味が重要です。積極的に討議へ参加してください。									
e-mail・研究室 (連絡先)	桂 晶子 : 研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 遠藤恵子 : 研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 齋藤美華 : 研究室 1 misaito@yachts.ac.jp									

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生																																			
看護学特別研究Ⅰ (専門科目)	教授・菅原京子 教授・桂晶子 教授・遠藤恵子 教授・安保寛明 教授・齋藤美華 准教授・鈴木育子	博士後期課程 1年	後期	2	30	選択(選択必修)	否																																			
授業概要	看護学分野の研究指導教員が、コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点で研究課題、研究計画に関する指導と支援をする。具体的には、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たる。																																									
一般目標	1.出願時の研究テーマ(仮)について、コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点で検討する。 2.コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点での研究課題について、明確化する。 3.明確化した研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案する。																																									
到達目標	1.出願時の研究テーマ(仮)に関する文献を、幅広くかつ深く収集できる。 2.収集した文献を、コミュニティヘルス看護学又はヘルスプロモーション看護学の視点を踏まえて批判的に検討できる。 3.上記の過程を通して、博士論文における研究課題を明確化できる。 4.博士論文における研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況を具体的に説明できる。 5.博士論文における研究課題の研究目的と意義を具体的に説明できる。 6.研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案できる。 7.自己の研究課題、研究計画を発表できる。																																									
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況(30%)、準備状況(30%)、発表・討議(40%)をレポートで評価する。																																									
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)																																									
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>日付</th><th>授業項目・学習課題</th><th>学習内容・学習方法</th><th>授業外学習など</th><th>担当</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td>オリエンテーション</td><td>出願時の研究テーマ(仮)の発表・討議</td><td></td><td>全員</td></tr> <tr> <td>2~8</td><td></td><td>研究ゼミナー</td><td>9回目の発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動</td><td></td><td>各教員</td></tr> <tr> <td>9</td><td></td><td>研究課題、研究計画の明確化</td><td>研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画 発表と討議</td><td>発表準備</td><td>全員</td></tr> <tr> <td>10~14</td><td></td><td>研究ゼミナー</td><td>15回目の発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動</td><td></td><td>各教員</td></tr> <tr> <td>15</td><td></td><td>まとめ</td><td>研究課題、研究計画 発表と討議</td><td>発表準備</td><td>全員</td></tr> </tbody> </table>						回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当	1		オリエンテーション	出願時の研究テーマ(仮)の発表・討議		全員	2~8		研究ゼミナー	9回目の発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動		各教員	9		研究課題、研究計画の明確化	研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画 発表と討議	発表準備	全員	10~14		研究ゼミナー	15回目の発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動		各教員	15		まとめ	研究課題、研究計画 発表と討議	発表準備	全員
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当																																					
1		オリエンテーション	出願時の研究テーマ(仮)の発表・討議		全員																																					
2~8		研究ゼミナー	9回目の発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動		各教員																																					
9		研究課題、研究計画の明確化	研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画 発表と討議	発表準備	全員																																					
10~14		研究ゼミナー	15回目の発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動		各教員																																					
15		まとめ	研究課題、研究計画 発表と討議	発表準備	全員																																					
看護学特別研究Ⅰに関する各教員の指導テーマは下記の通りである。																																										
○菅原京子：コミュニティを基盤にしたヘルスケアに関する研究について指導する。具体的には、地域特性に応じた保健医療福祉サービス提供体制の中で機能する看護職者の役割に関する研究、難病療養者が必要なサービスを主体的に選択できるための体制整備に関する研究、「排除された人々」と称される複雑多岐に渡る課題を有する対象者への共生を目指した支援に関する研究を扱う。																																										
○桂晶子：ヘルスプロモーションでは、個人の健康づくりに対する意識と個人を支える環境の整備が重要な視点であり、元気な中高年を対象とした健康づくりに焦点をあてて指導する。さらに個人のヘルスプロモーション活動を支援するためのソーシャルネットワークや、地域で展開されている様々な活動の構築について、具体的な活動を通して研究を展開できるように指導する。																																										
○遠藤恵子：妊娠期から育児期にかけての児童虐待予防・早期発見や、性教育を含む性の健康といった次世代育成に関する研究について指導する。思春期や育児期にある当事者への支援と併せ、次世代育成に向けた支援体制の中での看護職者の役割を検討する。																																										
○安保寛明：訪問看護やACT(包括型地域支援)の地域におけるケアの特徴や機能、精神障がいを有する人の住環境と住まいでの支援に関する研究、精神障がいを有する人へのニーズ調査や慢性疾患を有する人が抱える精神的困難に対する複合的支援などの見地から、指導する。																																										
○齋藤美華：高齢者とその家族に特徴的な健康問題の中で、看護実践上の課題や支援に関わる職種間連携のあり方、およびヘルスプロモーションのあり方などの課題を捉えながら研究を展開できるように指導する。																																										
○鈴木育子：在宅ケアにかかる諸制度の中で機能する看護職者の役割に関する研究、在宅療養児・者、障がい児・者等が可能な限り質の高い地域生活を送ることができるようにするための看護職者の支援に関する研究の方法を指導する。																																										
教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。																																									
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況(一般・社会人)によって変更可能ですので、事前にご相談ください。																																									

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	研究ゼミナールでは、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿つて、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たります。
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菅原：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室 9 skatsura@yachts.ac.jp 遠藤：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp 齋藤：研究室 1 misaito@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
看護学特別研究II (専門科目)	教授・菅原 京子 教授・桂 晶子 教授・遠藤 恵子 教授・安保 寛明 教授・齋藤 美華 准教授・鈴木 育子	博士後期課程 2年	通年	4	60	選択(選択必修)	否
授業概要	看護学特別研究Iでまとめた研究課題、研究計画を基に実施した予備研究や本研究のデータに関するまとめと解釈に、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームで当たる。						
一般目標	1. 研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討する。 2. 研究課題、研究計画に関する倫理審査を受け、承認を得る。 3. 研究計画に沿ったデータ収集と分析を行う。 4. データのまとめと解釈を行う。						
到達目標	1. 研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討できる。 2. 検討した倫理的配慮を倫理委員会の審査書類に記述できる。 3. 倫理委員会で研究の概要と倫理的配慮を的確に述べることができる。 4. 研究計画に沿ってデータを収集できる。 5. 収集したデータを分析し、必要に応じてデータの追加収集を行うことができる。 6. データのまとめと解釈を行うことができる。 7. 特別研究Iの研究計画及び特別研究IIのデータのまとめと解釈について発表できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況(30%)、準備状況(30%)、発表・討議(40%)をレポートで評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ～ 30		予備研究と本研究 研究テーマの設定 研究背景と目的 妥当な研究方法の選択 適切なデータ解析方法 倫理審査の受審 研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的に対応した考察 中間発表会	院生が選択した研究内容に応じて、 教員が研究指導チームを編成して、資 料の収集方法や研究実施方法、解析方 法、結果の解釈などを定期的に指導す る。 その指導の下、毎月の看護学分野会 において、経過を発表し、データの解 釈と統合を図る。	自身の研究課題に 関する国内外の研究 報告などの情報収集 に努め、絶えず情報 を更新し、主研究指 導教員と副研究指 導教員の指示に沿っ て、積極的に研究を 実行する。	全員

看護学特別研究IIに関する各教員の役割は、下記の通りである。

看護学特別研究Iで作成した研究計画に基づき、データ収集、解析、解釈などを指導する。

教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況(一般・社会人)によって変更可能ですので、事前にご相談ください。
学生への メッセージ	目的意識を持って臨んでください。
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原: 研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂: 研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 遠藤: 研究室20 kendo@yachts.ac.jp 安保: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp 齋藤: 研究室1 misaito@yachts.ac.jp 鈴木: 研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
看護学特別研究III (専門科目)	教授・菅原 京子 教授・桂 晶子 教授・遠藤 恵子 教授・安保 寛明 教授・齋藤 美華 准教授・鈴木 育子	博士後期課程 2~3年	通年	4	60	選択(選択必修)	否
授業概要	看護学特別研究I・IIを通じてまとめた研究成果を主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して博士論文として作成するための指導に当たる。						
一般目標	1. 看護学特別研究I・IIを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成するまでの、自己の課題と解決方法を認識する。 2. 博士論文の内容の一部を学術論文としてまとめる。 3. 博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成する。 4. 論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 5. 論文発表会において研究成果を発表できる。						
到達目標	1. 看護学特別研究I・IIを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成するまでの、自己の課題と解決方法について意見交換できる。 2. 博士論文の内容の一部を学術論文として作成し、学術雑誌への投稿に向けた準備ができる。 3. 博士論文の構成を検討できる。 4. 博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成できる。 5. 論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 6. 論文発表会において研究成果を発表できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況(30%)、準備状況(30%)、発表・討議(40%)をレポートで評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ~ 30		研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的に対応した考察 研究のまとめ 博士論文の作成 博士論文発表の準備 論文発表会	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、論文構成、問題設定、研究方法、結果、考察、結論、文献および口頭試問に備えた対応、学術誌への投稿などを定期的に指導する。 その指導の下、毎月の看護学分野会において、経過を発表し、論文作成を促進する。 論文発表会は3分野合同で実施する。	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	全員

看護学特別研究IIIに関する各教員の役割は、下記の通りである。

看護学特別研究IIで収集したデータの解析や解釈に基づき、博士論文作成を指導する。

教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況(一般・社会人)によって変更可能ですので、事前にご相談ください。
学生へのメッセージ	目的意識を持って臨んでください。
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原: 研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂: 研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 遠藤: 研究室20 kendo@yachts.ac.jp 安保: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp 齋藤: 研究室1 misaito@yachts.ac.jp 鈴木: 研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp